

Case25-2016

A 33-Year-Old Man with Rectal Pain and Bleeding

(N Engl J Med 2016; 375:676-682)

【患者】33 歳男性 【主訴】排便痛、直腸出血

【既往歴】なし【アレルギー】なし

【家族歴】母:高血圧症、大腸がんの家族歴なし

【内服薬】ナプロキセン（NSAIDs、疼痛時）、サイリウム（瀉下薬）

【社会歴】喫煙：なし、職業：建設業

16 年前にブラジルから移住し、ニューイングランドの都市部に妻と 2 人暮らし。

【現病歴】排便痛と排便時の出血で外科外来を受診した 33 歳男性。

4 か月前より排便時の痛みを自覚。トイレットペーパーに鮮血がついたが、便には血が混じっていないように見えた。6 日後にかかりつけ医を受診。その際、圧痛のある外痔核を認めたが、バイタルやその他の異常は認められなかった。サイリウム、ナプロキセン、ヒドロコルチゾンクリーム（ステロイド外用薬）が処方された。

排便時の直腸の痛みと出血が続いたため、10 週間後に再度かかりつけ医を受診。全身状態良好、体温 36.4℃、脈拍 82/min、血圧 126/76 mmHg だった。肛門付近の痔核から出血があったが、その他異常は認められなかった。サイリウム、ナプロキセン、ヒドロコルチゾンクリーム再度処方されたが、直腸痛と出血は持続し、大腸肛門外科に紹介受診となった。

【MGH の外来受診時現症・身体所見】

全身状態良好。頭頸部、胸部、腹部異常所見なし。

肛門：12 時、6 時方向に浅い裂肛と小～中サイズの見張り疣を認めた。

直腸診：中等度の圧痛あり。

【検査所見】

肛門鏡検査：裂肛と小さい内痔核を認めた。

S 状結腸鏡検査（30 cm 挿入）：肛門から 10 cm に、浮腫と紅斑を伴う軽度～中等度の粘膜の炎症を認めた。

- 追加の問診項目を挙げてください。
- Problem List を挙げてください。
- 鑑別診断および必要な検査を挙げてください。